

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 読みに困難さをもつ児童の実態に合わせた適切な支援機器等の選定方法及び指導法の検討
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	タイピング練習, カタカナ書字練習
	授業の目標	パソコンのキーボード入力による文章作成と正しい漢字を選択させる
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (6)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 対象児は全般的な知的機能は標準範囲内だが、発達性読み書き障がい認められ、ひらがなとカタカナの書字、漢字の音読と書字における正確性と、読みの流暢性に関して学習到達度が遅れている。発達性読み書き障がいの背景として、音韻能力および視覚認知力の弱さが考えられるため、音声教材による事前学習をすることで、文章の内容理解がすすむと考えられる。また、自分の考えを表現できるようにキーボード入力による文章表現の学習を行った。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) ・キーボード入力により、書くことに困難さを抱える児童が、自分の考えや板書などの記録を書いて残せるようにする。 ・対象児童が飽きずに集中できるように分かりやすくうまくできた時のフィードバックがすぐ出るアプリを使用して効果を確認する。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	 Windows PC:「カタカナ書順習得」 iPad :タイピング入力アプリ「のりものタイピング」、その他コミュニケーション促進用として「Jenga」、「うたドン!」、「ピアノタイル」
授業展開	授業展開・支援の手立て	  ・タイピング入力のアプリ「のりものタイピング」を活用して、ホームポジションとその周辺の入力練習をゲーム感覚で試した。集中して入力し、初めは人差し指のみでの入力だったが、画面上部に出る指示にも注目するよう促すと徐々に人差し指～小指までを使って入力できるようになった。 ・以前書くことができなかった、または思い出すのに時間のかかったカタカナを、「カタカナ書順習得」アプリを活用して練習した。書く際には「ヲ」
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・タイピングの入力練習では、児童本人も「パソコンできるようになりたい」と語り、意欲の高さが窺えた。試用版は無料で使えるため、自宅のiPadでもダウンロードできそうなら試してみるよう伝えた。 ・「カタカナ書順習得」アプリは気に入って練習しているように見えたので「どこが良かった?」と尋ねると、「書く向きが矢印ででてくるところ」と答えていた。アプリでの練習直後と約30分後に書いてもらったところ正しく書くことができていた。本アプリはきれいになぞれば花丸、少しはみ出すと丸がつくので、児童は花丸になるよう自ら進んで練習していた。児童は、自らやってみようといったことについては特に熱心に取り組んでいた。